

本年4月に東播磨県民局長に着任された野北局長にお話を伺いました。

魅力あふれる東播磨

東播磨県民局長の勤務は初となります。ウォーキングが趣味なので空き時間を見つけては庁舎周辺を歩いています。加古川駅前には公共施設や医療機関、商業施設も集中していて便利で非常に住みやすい街だと感じています。管内の臨海部には先進的なものづくりを行う企業があり、穏やかな海では海苔の養殖が行われ、兵庫県の今年の漁期中の収穫量は全国1位となりました。北部

誇りを持てる

魅力的なまちづくりを

兵庫県東播磨県民局長
のぎた 浩三 さん

は豊かな自然が広がり農業も盛んで主に加古川市産のデュラム小麦から作られたパスタは「加古川パスタ」として販売されています。このように東播磨は魅力あふれる街ですので、私たち県民局もその魅力を最大限活かせるようお手伝いをしてまいります。

「ものづくりと水辺」を内外にPR

新型コロナウイルスの5類移行でこれまで止まっていた事業が動き始めます。今年度は事業・イベントを活発に行い地域の活性化に繋がっていきたくと考えています。

東播磨南北道路（東播磨道）の残る整備区間は八幡三木ランプ以北となりました。東西の移動は古くから道路が発達している一方、南北については迅速な移動がなかなか厳しい状況にありました。東播磨道が完成すれば、交通の流れの変化に伴い人の流れも変わり、ものづくりの集積地である地域経済に及ぼす効果も期待できるのではないのでしょうか。

2025年に開催される大阪・関西万博を機に、兵庫県では県全体をパビリオンに見立て、魅力を発信する「ワールドパビリオン」を展開します。地域の「活動の現場そのもの（フィールド）」を、地域の方々が主体となつて発信し、多くの人に来て、見て、学

び、体験していただくものです。例えば「いなみ野ため池ミュージアム」などはその最たるものです。兵庫県はため池の数が全国1位で、東播磨県民局ではかねてから地域振興室に「水辺地域づくり担当」を置いてため池への理解を深めたり、利活用について取り組んできました。ため池そのものをミュージアムに見立て、ここでしかないものを「見て・学ぶ・体験する」ワールドパビリオンの先駆けとも言える取り組みで、地域の魅力を知ってもらえる良い機会になればと考えています。

魅力を知るのはまず住民から

地域資源の魅力を発信するといっても多くの方に知っていただくのは一朝一夕でできるものではありません。機会を逃さずコツコツと積み上げていくことが大切です。一つでは弱くても工夫して複数組み合わせることで人を呼べる可能性はあります。そして何よりまずは住民の皆さまにこのまちの住みやすさを実感し、たくさんある魅力を知って誇りを持ってもらうことです。大人になって市町外へ出て、いつかまた戻ってきたいと思えるまちづくりをしていかなくてはなりません。そのお手伝いを約400名の職員が一丸となつてお手伝いをしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。